

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校
第2学年理科資料

こんにちは。動物園の「幅崎」です。まもなく2学期、夏休みの宿題は、完成したでしょうか。何度も通ってじっくりと観察していた人、ボランティアをさがして質問責めにした人、一生懸命取り組んでいたようですね。動物の観察は、答えが一つとは限りません。なぜそうなっているのか考えることが大切です。さて今日は、宿題にもあった鳥類の生活とくちばしについてですが、かぶらないように別の種類をとりあげます。

前足がつばさになった鳥類は、前足のはたらきを「くちばし」と「後ろ足」でこなさなければなりません。くちばしは、器用のみやピンセットのように使ったり、羽毛をととのえたり、ひなの世話をしたりできます。あごの骨の突き出た部分に、堅い表皮のさやがついているものでわたしたちの「くちびる」にあたる部分です。鳥によって特定の仕事がしやすく進化しているのでそのちがいを観察しやすい部分です。

ここで3種類の鳥のくちばしを見てみましょう。上の2枚は総合水鳥舎、は白鳥池の鳥ですのもう一度動物園に来て見てください。(もう、3度目だというひとは、正直ですね。)形からどんな生活をしているかイメージできましたか。上のモモイロペリカンは、水に飛び込んで「魚をすくう」のに便利なくちばしです。中のハクチョウは、「水草をちぎって食べる」のに便利な秘密があります。そして下のクロトキは、「魚をついばむ」のに便利な形です。



さて、左下の写真は、エサをとるシロフクロウ「セーヴェル」君です。彼の食べているのは、鶏のひなですが、何と丸呑みしています。今日のメニューはひな4羽ですが、あっという間に「ごちそうさま」でした。そうです、鳥類の口には「歯」がないのです。彼らは、「虫類」からの進化の過程で「飛ぶ」という能力を選んだので、重量のかさむ「歯」をあきらめたのです。その代わりにどのようなしくみを身につけたのでしょうか。遠くでなければ見られない鳥類も身近に見られますよ。



授業でもあった「身近な動物の観察」ですが、その実力を発揮できたでしょうか。これは宿題だけではなく、日常生活でも結構役立ちますよ。「伏見稲荷付近で熊が出没した跡がある。」という通報で園のメンバーが出動したことがありました。プロの判断は、「すぐのものではない。」ということですが、その根拠は、観察の結果なのです。動物のすがたをよく見て、わかったことは文章、スケッチ、デジカメなどで記録、学校にレポートしてくださいね。では、また。

学びたい！

社会教育施設を利用していますか。もちろん動物園だけではなく、近くには「中央図書館」があります。学校と違って、「知りたい」という気持ちで行く場所です。実は、学校も「学びたい」という若者が集まる場所なんですよ。「学びたい」という気持ちを態度(行動)で表していますか。宿題レポートは、2学期に入ってから続きを調べてもかまいません。最後まで自力で挑戦してくださいね。